

生きた知識で紐解くベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ

諸井誠が名手2人を率いてレクチャー・シリーズをスタート

2月12日●上野学園 石橋メモリアルホール

取材・文=上田弘子

古典派の革命児 vs 現代音楽の革命児

諸井誠といえば、作曲において早くから12音技法や電子音楽を取り入れたり、邦楽器とオーケストラの融合、またさまざまな現代音楽祭の企画など、現代・前衛音楽界の旗手として名高い。と同時にベートーヴェン研究をライフワークにしており、著書や講演は枚挙にいとまがない。そして個人的なことなのだが、大のベートーヴェン好きの筆者にとっては、学生時代にたびたびページを捲っていた『ベートーヴェン・ピアノソナタ/作曲学的研究』の著者、諸井三郎氏のご子息として認知していたので、嗚呼、悠久のベートーヴェン！と感じ入っている。余談だが、諸井誠の誕生日はベートーヴェンと同じ12月17日である（正確には16日にベートーヴェンは生まれており、誕生の洗礼を教会で受けた、いわゆる公的な誕生日は17日となっている）。

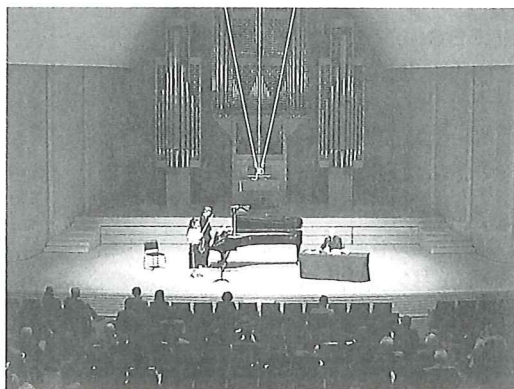
さて、さまざまな企画と内容のレクチャーは世に多い。新たな知識を得るのは嬉々となるが、このたび上野学園・石橋メモリアルホールと上野学園大学音楽文化研究センターが企画・主催した「ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ革命/諸井誠が語る、クロイツェル・ソナタへの道」は、一見の価値ありどころか必須科目と言える。諸井のレクチャーは、いわゆる超硬派な形式・様式論や作品の楽曲分析とはひと味異なり、生きた知識で謎解きをしていくような愉しさである。専門的に語りながらも、若きベートーヴェンが楽聖ベートーヴェンに変わっていく様まで、つまり作曲家の思想や精神にまで踏み込んでいる。それもじつにさり気なく自然な論じ方で、その説得力は、長らくベートーヴェンと対峙してきたからこそ、充分に咀嚼された音楽語ゆえか。もしくは同じ「作曲家」、同じ「開拓

者、革命児」ゆえのものか。いずれにしても、時折り登場する洒落っ気（おやじギャグ?）も含めて耳を離さないレクチャーである。

ダ・ヴィンチ・コードならぬ ベートーヴェン・コード

シリーズは全4回。第1回は「ウィーンの伝統が息づく初期ソナタ」がテーマで、「ヴァイオリン・ソナタ第1番」(op12-1)、「第2番」(op12-2)、「第3番」(op12-3)、そして同時期に作曲された「ピアノ・ソナタ第8番《悲愴》」(op13)がレクチャーされた。ピアノ・ソナタは第3回でも登場するのだが（第17番《テンペスト》）、けっして箸休め的に置かれたのではなく、「ベートーヴェンのソナタの変化」の実写版の役を担っている。

「例えば有名な『交響曲第5番《運命》」(op67)と『第6番《田園》』(op68)。この2曲は同じ時期（1807～08年）に作曲されているのに、まったく性格が違いますよね。ベートーヴェンは常に刺激を求めていた人なので、このように作品と作品の間に意味深い谷間がよくあります。そこを見落としては駄目です。ハイドン、サリエリに習った、ウィーンの伝統に則ったソナタ形式で書かれた最初の3つのヴァイオリン・ソナタ（op12）。そうそう、3つというのも何だか意味深いですね。ドイツの諺に『すべて良いことは3つ/Aller guten Dinge sind drei』というのがありますから。先生に習ったとおりの形で書きながらも、そこはやはり天才ベートーヴェン。おかしいなあ……と思いつつ書きつつ、そこかしこに改革の気配があるんです。第1番の第2楽章で出てくる変奏。ソナタ形式=閉鎖的、変奏曲=解放的。この対立関係にある形式の扱い方や、そしてop12の次に、まったく異質の《悲愴ソナタ》(op13)ですよ（諸井）



佐藤まどか (vn) と安田正昭 (p) の演奏を交えたレクチャー



レクチャー・コンサート終了後、上野学園の船山信子教授（左）と諸井誠ご夫妻

ともに上野学園大学専任講師の佐藤まどか (vn) と安田正昭 (p) の演奏が随所に入り、諸井が絶賛する安田の解説も花を添えていた。後半はテーマのソナタのコンサート。「僕と安田君のベートーヴェン観は異なる時もあるので、それはそれでスリリングなんですよ」と笑う諸井だが、芸術の化学反応ほど面白いものはない。諸井・佐藤・安田という「すべて良いことは3つ」で、次回以降も楽しみである。また最終回では、3氏の鼎談もあるかもしれないとのこと。さて、この原稿を仙台の「珈琲豆屋ベートーベン」さんのコーヒーを飲みながら書いている。ん……至福の時、ベートーヴェン！

音楽の友

ONGAKU NO TOMO

音楽之友社創立70周年

70th
Anniversary

Monthly
April
2012
No.4

特大号

特別企画

ロシア音楽が熱い!

その魅力とラ・フォル・ジュルネ2012の楽しみ方

オントモ評議会～震災から1年

近藤誠一(文化庁長官)/片山杜秀/松本良一

特集 I

デビュー30周年!

五嶋みどり

「神童」から「カリスマ」への軌跡

特集 II

いま聴きたい!

ベートーヴェンの協奏曲

別冊付録

国内の演奏会&チケット情報満載!

コンサート・ガイド

カラー

ウィーン国立歌劇場のバル

ソフィア国立歌劇場

前橋汀子

諏訪内晶子

アリス=紗良・オット

ミロシュ

第16回浜松国際ピアノアカデミー

ほか

Midori
Goto

新連載

池辺晋一郎

チャイコフスキーの音符たち

好評連載

畑中良輔

荻窪ラプソディー

野村三郎

ウィーン国立歌劇場すみからすみまで

ほか

2012年4月(毎月1日)発行 第70巻